

29
NOV

2017年
11月29日(水)

IoT・AI時代の日本の進路・日本独自のものづくり革新	
01	<p>AI & IoT 時代の日本独自の技術・製品開発</p> <p>09:30-10:00 プレゼンテーション I 人工知能の現状と可能性、ディープラーニングの先にあるもの 東京大学大学院 工学系研究科 技術経営戦略学専攻 特任准教授 松尾 豊氏</p> <p>10:00-11:20 パネル討議 II AI & IoT 時代の日本独自の技術・製品開発 トヨタ自動車㈱ 専務役員 先進技術開発カンパニー President 伊勢 清貴氏 JAXA シニアフェロー 宇宙科学研究所教授 川口 淳一郎氏 東レ㈱ 取締役 生産本部 組織生産担当 田中 良幸氏 東京大学大学院 工学系研究科 特任准教授 松尾 豊氏 (チェアマン) 元本田技研工業㈱ 代表取締役副社長 元セガエンタープライゼス㈱ 代表取締役社長・会長 入交 昭一郎氏</p> <p>11:20-11:35 Q & A</p> <p>11:35-12:20 昼食「日本丸II」船内自由見学</p>
02	<p>パラダイムシフトへの挑戦</p> <p>12:20-13:30 マイクロ波による1世紀以上変わらなかった化学産業のものづくり革新への挑戦 -産業化は困難が世界の常識だったマイクロ波プロセスの事業化- マイクロ波化学㈱ 共同創業者 代表取締役社長 CEO 吉野 巖氏 共同創業者 取締役 CSO 塚原 保徳氏 (チェアマン) イノベーション オフィス 田中 代表 元東レ㈱ 代表取締役副社長 CTO 田中 千秋氏</p> <p>13:20-13:30 Q & A</p> <p>IoT・AI時代の“挑戦すべき日本製造業の革新”</p> <p>13:35-13:50 プレゼンテーション II 次世代製造業に向けたGEの革新 GEジャパン㈱ 代表取締役社長 兼 CEO 熊谷 昭彦氏</p> <p>13:50-14:05 プレゼンテーション III 5Gテクノロジーで大変革する超高速ネットワー、日本が求めるべきイノベーションの方向 大阪大学 教授 大学院 工学研究科 電気電子情報工学専攻 三瓶 政一氏</p>
01	<p>14:05-15:25 パネル討議 III IoT・AIの時代の“挑戦すべき日本製造業の革新” GEジャパン㈱ 代表取締役社長 兼 CEO 熊谷 昭彦氏 日立製作所 代表執行役 執行役員社長 IoT推進本部長 齊藤 裕氏 大阪大学 教授 大学院 工学研究科 電気電子情報工学専攻 三瓶 政一氏 パナソニック㈱ 専務執行役員 CTO CMO ビジネスイノベーション本部長 他 宮部 義幸氏 (チェアマン) 株式会社 代表執行役上席常務 技術統括部長 齊藤 史郎氏</p> <p>15:25-15:40 Q & A</p>
02	<p>15:45-17:00 IoT & AIというパラダイムシフトの時代を見据えたソフトバンクの戦略 > IoT & AI時代を見据えたソフトバンクのビジョンと事業戦略 > スマートロボット時代とソフトバンク ソフトバンク㈱ 代表取締役副社長 COO 今井 康之氏</p> <p>ARMが挑む技術・製品開発戦略、今後へのビジョン アーム㈱ 代表取締役 社長 内海 弦氏 (同 会) 元本田技研工業㈱ 代表取締役副社長 元セガエンタープライゼス 代表取締役社長・会長 入交 昭一郎氏</p> <p>17:00-17:15 Q & A</p> <p>17:20-18:20 ファイナル・メッセージ 革新と伝統 建築家 安藤 忠雄氏</p> <p>18:20-18:30 Q & A</p> <p>18:30-18:35 閉会ご挨拶 東京大学名誉教授 元理学部長 和田 昭允氏</p>



(注)海技教育機構提供

問合せ 申込先

新経営研究会

担当 秋山靖枝、田中智子
電話 03 - 3265 - 4341
FAX 03 - 3238 - 1791
メール office@shinkeiken.com
住所 〒102 - 0083
東京都千代田区麹町1- 6 - 9
DIK 麹町 804

とき

2017年11月28(火)～29日(水)

参加規定

※ 誠に恐縮に存じますが、大会へのご参加は、2日間通してお申し込みが原則となります。但し、セッション毎に、交代でご参加いただくことが可能です。

定員 120名

維持会員 162,000円/人 (2日間 税込み)
弊会主催研究会への参加企業 178,200円/人 (2日間 税込み)
初参加企業 189,000円/人 (2日間 税込み)

テキスト:

各講師のご講演録、またパネルディスカッションでの討議録が頒布されます。お届けは2018年2月になります。頒布価格:54,000円/冊(税込み) × ご希望冊数

● 誠に恐縮に存じますが、1日だけ、或いは特定のセッションに限っての大会参加のお申込は出来ません。但し、2日間のご参加は、セッション毎に参加される方が交替されることは可能です。例えば、第1日目はA氏、第2日はB氏、又は第1日の午前中はC氏、午後はD氏と交替されるからのご参加が可能です。但し、お申し込み時点でのご事前申告を原則としています。

● 1セッションだけのご参加でも、35周年記念パーティーと御座大鼓特別演奏に無料でご参加出来ます。会場の航海客船ターミナル・ホールは、「日本丸II」から徒歩5分前後です

● 大会会場「日本丸II」が繋船される晴海埠頭近辺は、現在2020年の東京オリンピック施設の建設がたけなわで、飲食店がありません。そのため、2日間の昼食には弁当が用意されます。

● お弁当希望者は、2日分で別途 1,500円 × 2 = 3,000円 いただきます。(ただしのお弁当 + ペットボトル入りお茶)

会場

航海訓練用大型帆船「日本丸II」晴海埠頭繋船
東京都中央区晴海5丁目7番1号 H2埠頭

会場へのアクセス

<バス> 東京駅丸の内南口、有楽町駅前、銀座4丁目から都バス 都05 系統「晴海埠頭」行終点下車 (20-30分)
数寄屋橋から 都バス 都03 系統「晴海埠頭」行終点下車 (25分)
東京駅八重洲口から 都バス 東12 系統「晴海埠頭」行終点下車 (30分)

<タクシー> 東京駅から約30分
新橋駅から約20分
銀座4丁目交差点から約15分



35
周年記念大会



グローバル化、第四次産業革命といわれる時代の

日本の進路、求められている革新

とき:
2017年11月28日(火)～29日(水)

会場:
航海訓練用大型帆船「日本丸II」
(東京晴海埠頭に繋船)

協賛:
独立行政法人 海技教育機構
(旧運輸省 航海訓練所)
石川県輪島市

主催:
新経営研究会
http://www.shinkeiken.com

28
NOV

2017年
11月28日(火)



09:00-09:05	開会ご挨拶	新経営研究会 代表 松尾 隆
09:05-09:10	ご挨拶	独立行政法人 海技教育機構 理事長 野崎 哲一氏
09:10-09:40	特別講演 帆船教育の源流/ロマンと感動と達成感・帆船の航海 (公財)帆船日本丸記念財団 常務理事、重要文化財 帆船日本丸船長 飯田 敏夫氏	

基調講演

01	09:45-10:45	現代のハイテクをもってしても生み出せない、日本刀に不可欠の材料玉鋼 日本の“ものづくり”の原点 - たたら吹き製鉄 千数百年に亘って培われて来た自然の命への畏敬の念と匠の技の結晶 株立金屋 安来製作所 日刀保たたら 村下 木原 明氏
	10:45-11:00	Q & A (同 会) 積水化学工業㈱ 取締役専務執行役員 加藤 敬太氏
02	11:05-12:05	細胞シートによる再生医療の創出、日本の技術による新たなグローバルイノベーションへの挑戦 東京女子医科大学 名誉教授・特任教授、ユタ大学教授 岡野 光夫氏
	12:05-12:20	Q & A (同 会) 積水化学工業㈱ 取締役専務執行役員 加藤 敬太氏

	12:20-13:20	昼食「日本丸II」船内ツアー
03	13:20-14:20	企業を持つ夢と精神、経営の岐路と意思決定 社運をかけたホンダJ E Tの開発、そのとき目指したものの 前本田田技術研究所 代表取締役社長 山本 芳春氏 前本田田技術工業㈱ 取締役 専務執行役員 元株セガエンタープライゼス 代表取締役社長・会長 入交 昭一郎氏
	14:20-14:35	Q & A

一社の限界を超える新しい価値の共創		
14:40-16:10	パネル討議 I オープンイノベーションの推進と実現 ライオン㈱ 執行役員 研究開発本部長 岡野 知道氏 味の素㈱ 常務執行役員 アミノサイエンス事業本部 副本部長 児島 宏之氏 花王㈱ 取締役常務執行役員 研究開発部門統括 長谷部 佳宏氏 富士フイルム㈱ 執行役員 R&D統括本部長 柳原 直人氏 (チェアマン) イノベーション オフィス 田中 代表 元東レ㈱ 代表取締役副社長 CTO 田中 千秋氏	
16:10-16:25	Q & A	

生物の不思議に学ぶ先端技術の未来		
16:30-17:45	対談 東京大学 教授 先端科学技術研究センター 所長 石田 秀輝氏 神崎 亮平氏	
17:45-18:00	Q & A (同 会) サントリー食品インターナショナル(株) 取締役副社長 辻村 英雄氏	

18:20-20:20 **35周年記念式典 & パーティー** (於:晴海客船ターミナル・ホール)
石川県無形文化財「御座大鼓」特別演奏 (※輪島市ご協賛)

新経営研究会 発足35周年記念大会

グローバル化、第4次産業革命といわれる時代の日本の進路、求められている革新

《ご挨拶》

去る1982年、同志(別紙)が相談らい、急変する企業環境の下で各企業がそれぞれの特徴を發揮し、明日の飛躍への新たな指針を見出すため、わが国企業の経営トップ、技術・製品開発とものづくりの第一線で指導的立場に立つ方々が産業横断的に交流し、相互啓発し合える機会と場の必要を痛感して発足いたしました弊会は、お陰様で、今年、発足35周年を迎えます。これも皆様のご支援の賜で、改めて、衷心より厚く御礼申し上げます。

私たちは今、“グローバル化”と“科学技術本流の画期的変化、また“第4次産業革命”ともいわれる“A I”と“ネットワーク化”が一体化して進展する画期的時代環境変化の中で、「如何に日本の文化に根強くざした“ものづくり精神”と“美意識”をより發揚、輝かせ、世界を牽引し、また世界に貢献出来る、日本独自のイノベーションを達成していけるか」と問われています。

私たちは今、“グローバル化”と“科学技術本流の画期的変化、また“第4次産業革命”ともいわれる“A I”と“ネットワーク化”が一体化して進展する画期的時代環境変化の中で、「如何に日本の文化に根強くざした“ものづくり精神”と“美意識”をより發揚、輝かせ、世界を牽引し、また世界に貢献出来る、日本独自のイノベーションを達成していけるか」と問われています。

帆船は「機能美・造形美の象徴」であるばかりでなく、紀元前4,000年以前、古代エジプト陶器や壁画にも残されている、風力を動力に、しかも風に逆らって移動することを可能にした、人類にとって正に「技術とものづくりの原点」といえるものです。

しかも「日本丸」は、実際に若人をして海という生きた大自然と対峙させ、実体験を通して「臨機応変の対応」、「リーダーシップ」、「フォロワーシップ」の何たるかを体得させる、正に「教育の原点を体現している場」です。

同時に、帆船は「ロマン」と「冒険」の象徴でもある。この「ロマン」と「冒険心」こそ、今日の日本が回復しなければならぬ最重要課題の一つである、と私たちは考えています。

私たちはかかるメッセージを秘める「日本丸」に自らを置き、「日本丸」という「場」が秘める本質を体で感じ、今後を本質的に考え合う機会を持ちたいと願っています。



(新経営研究会 代表 松尾 隆)



野崎 哲一氏
(独) 海技教育機構 理事長

航海訓練用大型帆船「日本丸」「海王丸」は(独)海技教育機構に所属。氏は1955年(昭和30年)生まれ。日本郵船船員 経営委員、N YK GROUP AMERICAS INC 社長 兼 CEO、日本郵船船員 常務経営委員、近海郵船(株) 代表取締役社長を歴任して、2016年、(独)海技教育機構 理事長に就任。海洋立国日本を支える人材育成、海事業業の発展に貢献すべく邁進している。



飯田 敏夫氏
(公財) 帆船日本丸記念財団 常務理事、重要文化財 帆船日本丸 船長

氏は神奈川県横浜市「みなとみらい」に係留され、今年3月、重要文化財に指定された帆船「日本丸I(1930年建造)」の10代目船長。建造時から数えると38代目に当たる。約40年に亘って船員教育に携わり、航海訓練用大型帆船「日本丸(新)」と「海王丸(新・旧)」又「大成丸」、「北斗丸」、「銀河丸」、「青雲丸」に乗船。「海王丸」は船長も務めた。



木原 明氏
株式会社 安来製作所 代表取締役
島上木炭炭工場 日刀保たたら 村下

「たたら製鉄」は、千数百年に亘って日本の工人が培って来た独自のものづくり精神と知恵の結晶。極めて高純度の鋼を産出し、日本刀はここで生み出される玉鋼でしか作れない。この操業技術の統括者が村下(むらげ)。「たたら製鉄」は人間の「五感」を総動員して炉内変化を読み取ることに尽き、重要なのは「火を見る感性」だという。「たたら製鉄」のメカニズムは、今日まだ完全には解明されていない。



岡野 光夫氏
東京女子医科大学 名誉教授・特任教授、ユタ大学 教授

医工融合で世界初の細胞シートによる再生医療を創出。 臓器自体の復元も可能だが、臓器機能の一部を回復させる再生治療の方がより効果的で現実的だという。現在、ユタ大学にも細胞シート再生医療研究センターを開設し、日本の技術で医療のグローバルイノベーションを起すべく邁進している。新しい医療時代が開かれようとしている。



山本 芳春氏
株式会社 技術研究所 前代表取締役 社長
本田技研工業㈱ 前取締役 専務執行役員

Honda Jet は、ホンダが次代の跳躍台として社運をかけて取り組んだ開発。その全体を統括していたのが氏。2008年、リーマンショックが勃発。GMやクライスラーも経営危機に直面。この時、福井威夫社長はホンダの情熱・挑戦の象徴でもあったF1撤退を決定。しかしHonda Jetの開発は継続し、2015年、遂に一号機がお客に引き渡された。エンジンと機体の双方を開発、生産するのは世界でホンダだけ。



岡野 知道氏
ライオン㈱ 執行役員 研究開発本部長

ライオンは「健康」「快適」「環境」をキーワードに、ハウスホールドを始め、横浜国立大学先端医学科学研究センターを拠点に生活習慣病の予防を目指した機能性食品と医薬品の在り方、新しいオーラルケアの研究など、「健康」に関する技術開発を推進している。氏はその同社研究開発の中核。オープンイノベーションの推進者でもある。



児島 宏之氏
味の素㈱ 常務執行役員
アミノサイエンス事業本部 副本部長

氏は、ロシア国立研究所と共同創立されたロシア初の研究合弁会社の元副社長。2010年、味の素社は研究開発体制を再編。氏担当の「バイオ・ファイン研究所」は、ベンチャーなども巻き込んだ、同社の強み「先端バイオ・ファイン技術」の一層の強化と事業・技術の連携強化が目的。オープンイノベーションは同社の創業以来の歴史。



長谷部 佳宏氏
花玉㈱ 取締役 常務執行役員
研究開発部門統括

同社は創業130年を超え、大ヒット商品開発で知られる高開発型企業、また増収増益を更新し続ける超優良企業。氏はその同社研究開発部門の今日の統括者。 カネボウとの化粧品事業統合の際に生じた異なる企業文化の融合にも大きな役割を果たした。氏は現在、周囲の信頼の下、同社のオープンイノベーション推進の核となっている。



柳原 直人氏
富士フィルム㈱ 執行役員 R&D統括本部長

2006年、創業81年を迎えていた同社は、時代が「アナログ」から「デジタル」へ移行し、本業消失の危機感の下、古森重隆社長は「第二の創業」を期して事業構造の大転換を決意。これ迄のアイデンティティーであった「写真」の二文字を社名から外し、新たな成長の機会を見出すべく再出発した。その時のキーワードが「オープンイノベーション」だった。



石田 秀輝氏
東北大学名誉教授

旧I N A X取締役研究開発センター長、東北大学大学院環境科学研究所科教授を経て、現在同大名誉教授。自然の姿を驚く活かす新しいものづくり「ネイチャー・テクノロジー」を提唱。現L I X I Lの「カタツムリ」の殻から学んだセルフリーニング機能を持つ外装材」は氏の開発。「超能力を持つ生き物たち」「自然界はテクノロジーの宝庫」など、書籍多数。



神崎 亮平氏
東京大学 教授
先端科学技術研究センター 所長

「昆虫が持つ驚異的センサーや脳の機能を人間の世界に活用していけないか」を考えている。動物は一夕考えて行動しているのではなく、無意識にセンシングし、無意識に動いているのだという。センシングと意識下の世界を結びつけるか、無意識の世界と結びつけるかは大変重要な課題だという。AIとは異なる可能性がここには秘められていないか。



梶 文秋氏
石川県輪島市長

昭和46年(1971年)、輪島市役所職員。平成3年(1991年)輪島市議会議員。平成10年(1998年)輪島市長就任。現在3期目。平成19年3月の震度6強、能登半島地震では、その救急と再興活動に全力を尽くした。趣味は切絵、料理、日曜大工、囲碁、将棋など。 座右の銘は「迷った時は絵の道を選択せよ」「人生意気」に感ず、功名誰かまた論ぜん。



松尾 豊氏
東京大学大学院 工学系研究科 技術経営戦略学専攻 特任准教授

「人工知能」研究の最先端にいる科学技術者の1人。人工知能の新分野の開拓を通して、大きなブレークスルーを目指している。人工知能は今急速に進化し、社会を変えつつある。AIは何をどこまで可能とするのか。AIは今後、匠の技の解明、再現、伝承に大きく貢献する可能性があるという。人工知能のディープスタディーの先にあるものは何か。



伊勢 清貴氏
トヨタ自動車㈱ 専務役員
先進技術開発カンパニー President

2015年、トヨタ自動車は氏を中心にMIT、スタンフォード大学と連携。AI研究に5,00万ドルを投資。自動運転車を本格化した。2017年1月、トヨタ自動車はAI、自動運転技術を搭載したコンセプトカー「愛i」を米国家電見本市「CES(ラスベガス)」への出展を発表した。



川口 淳一郎氏
JAXA シニアフェロー、宇宙科学研究所 宇宙飛行工学研究系 教授

2003年5月、日本の科学技術の粋を集めて打ち上げられ、2010年5月、7年、60億kmの旅を終え、日本人の心に深い感動を刻した小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクマナー・ジャー。“はやぶさ”は自感性を強化した一種の宇宙探索ロボット。あらゆるプログラムがコンピュータの自動処理を前提に組まれている。氏はここに人間が介入出来る余地を設け、今後に極めて大きな教訓を残した。



田中 良幸氏
東レ㈱ 取締役
生産本部 繊維生産担当

1984年東レ㈱ 繊維研究所(現複合材料研究所) 入社。合成繊維や炭素繊維の高強度化研究に従事後、ハイパフォーマンスファイバーの技術開発に従事。2012〜14年、生産プロセス革新やICT・ビッグデータ活用プロジェクト等を立ち上げ、2015年より繊維生産担当役員として、国内外繊維生産拠点の技術開発と生産全般を統括している。



熊谷 昭彦氏
GEジャパ㈱
代表取締役社長 兼 CEO

GEは1892年、エジソンによって創業され、140年近い歴史を持つ。1896年にダウ平均株価が算出されて以来、唯一残存する企業。変革をリードする企業、最も優れたリーダーシップを持つ企業がGEへの世界の評価。そのGEが今、自らGE史上最大の変革という、IoT、AIを核とする Digital Industrial Companyへの大革新に挑戦している。氏は、その日本人の最高経営責任者。



三瓶 政一氏
大阪大学 教授 大学院 工学研究科 電気電子情報工学専攻

5Gでネットワーク関係が大きく革新されようとしている。氏は第5世代モバイル推進フォーラム技術委員長。インテリジェント無線伝送方式研究の第一人者。セルラシステムの基本要素・適応変調技術を世界に先駆けて開発。5Gは今日と桁違いの超高速・大容量、超多数端末接続、超低遅延、超高信頼性を高め、インダストリー4.0やIoTニーズに対応しようとしている。



齊藤 裕氏
I o T推進本部長

日立のITとインフラ技術を核に、社会イノベーション事業の確立に向け、IoT時代のデータドリブン型システムへの変革をリードし、協創を基本に国内外での新しいインフラ実現を加速させている。「AIやIoT時代の今日、センサーからネットを介して得たデータを現場で活かすシステム」の必要を説く。情報・通信システム社 社長時代(2013)、売上高1兆8000億円の日立最大事業を率いていた。



宮部 義幸氏
パナソニック㈱ 専務執行役員 CTO、
ビジネスイノベーション本部長、他担当

「家電のデジタル化を決断し、一時は決断出来なかった米国を押さえてリードした日本がインターネットで決断出来ず、「情報スーパーハイウェイ構想」の下、インターネット上でのビジネス展開を促した米国に、日本は遅れを取った。しかし、IoTでは“IT”を多く持つ日本企業は有利。後は“IT”に如何に取り組むか、”だと氏は言う。同社の技術開発、生産、企業革新など、重要部門を全て担当。



吉野 巖氏
マイクロ波化学㈱ 共同創業者
代表取締役社長 兼 CEO



塚原 保徳氏
同共同創業者 取締役 CSO

2007年に共同創業された阪大発のベンチャー。世界で実現困難が通念だったマイクロ波プロセスのスケールアップに成功。桁違いのエネルギー削減と装置の小型化を実現して、100年以上変らなかった化学産業の製造プロセスを革新すべく挑戦中。2014年、BASFと共同開発契約終結。今年、太陽化学㈱とも合弁会社を共同設立した。



今井 康之氏
ソフトバンク㈱
代表取締役副社長 COO

1993年、35才のとき出会った孫正義社長の強い誘いを受け、大手建設企業からソフトバンクに移籍。以後、孫社長と辛酸も喜びも共にして来た方。時代変化の先頭を走って来た孫社長の下、既存事業の一切を任せられて来た。2016年9月、3兆3000億円強の英半導体開発メーカーアーム・ホールディングス、本年ロボット開発ベンチャー買収など、今日の会社のビジョンと事業戦略をご披露願う。



内海 弦氏
アーム㈱ 代表取締役 社長

同社は2016年7月、ソフトバンクが3.3兆円強で買収した英国半導体メーカー。孫氏は、これで「IoT」時代への布石は打てたと話す。曾て世界でインテルがデファクトスタンダードを握ったように、今後はアームだと孫氏は言う。ARMの半導体は、今、殆ど全ての電子分野で頭脳として活用され、今後もAI、ロボティクスなどで採用が広がる予想されている。氏は、その日本人の代表取締役社長。



安藤 忠雄氏
建築家

1941年、大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。2010年度文化勲章受賞。1997年より東京大学教授、2003年から名誉教授。イエール大学、コロンビア大学、ハーバード大学、各客員教授歴任。フランス芸術文化勲章他、内外の名だたる受賞多数。代表建築に「六甲の集合住宅」、「光の教会」、「地中美術館」、「フォートワース現代美術館」など、多数。



和田 昭允氏
東京大学名誉教授 元理学部長、
(学)順正学園 理事 相談役

「ゲムは生物38億年の生き残りの知恵の塊」との認識の下に「DNAを生命科学と物質科学の接点と考え、その情報を大量に読み込む」ことを目的に、1998年、理研にゲノム科学総合研究センターを設立。世界で初めてコンピューターによるゲノム解析を提案した。また、化学・物理学という物質科学の世界から生命科学に入り、生命の神秘の解明に挑む「生物物理学」という新たな学問分野を確立。1987年、日本の見識を世界に問い、世界初 学際的・国際共同基礎科学研究プログラム「ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム」の基本哲学を確立。その推進の中心となった。



入矢昭一郎氏
元本田技研工業㈱ 代表取締役 副社長、
元サセガエンタープライゼス 代表取締役 社長・会長

加藤 敬太氏
積水化学工業㈱ 取締役 専務執行役員
高機能プラスチックカンパニープレジデント

佐治 晴夫
筑波大学 名誉学長、
石のまち・美田(MISORA)天文台台長

鈴木 一壽
国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長

中村 実康
ソニー(株)元執行役員副社長、
元(株)ソニー-中村研究所代表取締役社長

中島 平太郎
ソニー(株)元常務取締役 中央研究所長、
元アイワ(株)社長・会長

和田 通弘
本田技研工業(株)
同社2代目 代表取締役副社長

和田 昭允
東京大学 名誉教授・元理学部長、
元(株)東芝 常務取締役

吉原 義人
刀匠 東京都指定無形文化財保持者、
日本職人名工会会長兼名匠

和田 千秋氏
イノベーション・オフィス 田中 代表、
元東レ㈱ 代表取締役 副社長 CTO

和田 千秋氏
イノベーション・オフィス 田中 代表、
元東レ㈱ 代表取締役 副社長 CTO

中島 平太郎
ソニー(株)元常務取締役 中央研究所長、
元アイワ(株)社長・会長

西田 通弘
本田技研工業(株)
同社2代目 代表取締役副社長

和田 昭允
東京大学 名誉教授・元理学部長、
元(株)東芝 常務取締役

吉原 義人
刀匠 東京都指定無形文化財保持者、
日本職人名工会会長兼名匠

和田 通弘
本田技研工業(株)
同社2代目 代表取締役副社長

和田 昭允
東京大学 名誉教授・元理学部長、
元(株)東芝 常務取締役

吉原 義人
刀匠 東京都指定無形文化財保持者、
日本職人名工会会長兼名匠

代表発起人 ……(敬称略・五十音順 / 所属・役職は1982年発足当時)

小林 茂
ソニー(株) 参事、
元常務取締役 厚木工場長

椎名 武雄
日本アイ・ピー・エム(株)
代表取締役社長

高橋定太郎
松下電器産業(株) 顧問

高柳健次郎
日本ビクター(株) 顧問

ご協賛・ご協力先 ……(敬称略・五十音順 / 所属・役職は1982年発足当時)

(独立行政法人、地方自治体)
(独) 海技教育機構
石川県輪島市

(ご協賛 / ご協力企業・五十音順)

旭硝子(株)
味の素(株)
ASVAL(株)
花玉(株)
(学)金沢工業大学

旭硝子(株)
トヨタ自動車
日本電気硝子(株)
東日本マイロックス

パソニック(株)
日立ハイテクノロジーズ
日立マクセル(株)

(株)本田技研研究所
(株)東芝(株)
セイコーエプソン(株)
積水化学工業(株)
帝人(株)
株式会社ソー

凸版印刷(株)
トヨタ自動車
ASVAL(株)
花玉(株)
日本電気硝子(株)
東日本マイロックス
パソニック(株)
日立ハイテクノロジーズ
日立マクセル(株)

(株)本田技研研究所
(株)東芝(株)
セイコーエプソン(株)
積水化学工業(株)
帝人(株)
株式会社ソー

日立マクセル(株)
日立マクセル(株)
日立マクセル(株)
日立マクセル(株)
日立マクセル(株)

(株)本田技研研究所
(株)東芝(株)
セイコーエプソン(株)
積水化学工業(株)
帝人(株)
株式会社ソー

(株)マネジメントエンジン
(2017年7月21日現在)

新経営研究会世話人・フェロー ……(敬称略・五十音順 2017年7月21日現在)

代表 松尾 隆
金沢工業大学 客員教授、吉備国際大学 客員教授

世話人 ……

伊勢 清貴
トヨタ自動車(株) 専務役員
先進技術開発カンパニープレジデント

入矢 昭一郎
(株)入矢昭一郎 代表取締役、
元本田技研工業(株)代表取締役副社長、
元サセガエンタープライゼス
代表取締役社長・会長

飛島 章
元飛島建設(株) 代表取締役社長

小川 立夫
パソニック(株) 生産技術本部 本部長

加藤 敬太
積水化学工業(株) 取締役 専務執行役員

加藤 雄一
(株)アドバテクス 代表取締役会長

加藤 雄一
(株)アドバテクス 代表取締役会長

児島 宏之
味の素(株) 常務執行役員
アミノサイエンス事業本部副本部長

齊藤 史郎
(株)東芝 執行役 上席常務 技術統括部長

重見 昭史
(株)ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン
シニアチーフエンジニア

飛島 章
(株)東芝 執行役 上席常務 研究開発本部長

千歳 誠
日立マクセル(株) 代表取締役 会長

高宮健明
凸版印刷(株) 常任監査役、前代表取締役副社長

飛島 章
(株)東芝 執行役 上席常務 技術統括部長

千歳 誠
日立マクセル(株) 代表取締役 会長

高宮健明
凸版印刷(株) 常任監査役、前代表取締役副社長

フェロー ……(敬称略・五十音順 2017年7月21日現在)

安達以年雄
(株)アタチ産業研究所 代表取締役会長、
(財)アタチ伝統木版技術保存財団 理事長

佐治 晴夫
筑波短期大学 名誉学長、
石のまち・美田(MISORA)天文台台長

鈴木 一壽
国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長

中村 実康
ソニー(株)元執行役員副社長、
元(株)ソニー-中村研究所代表取締役社長

中島 平太郎
ソニー(株)元常務取締役 中央研究所長、
元アイワ(株)社長・会長

和田 通弘
本田技研工業(株)
同社2代目 代表取締役副社長

和田 昭允
東京大学 名誉教授・元理学部長、
元(株)東芝 常務取締役

吉原 義人
刀匠 東京都指定無形文化財保持者、
日本職人名工会会長兼名匠

代表発起人 ……(敬称略・五十音順 / 所属・役職は1982年発足当時)

小林 茂
ソニー(株) 参事、
元常務取締役 厚木工場長

椎名 武雄
日本アイ・ピー・エム(株)
代表取締役社長

高橋定太郎
松下電器産業(株) 顧問

高柳健次郎
日本ビクター(株) 顧問

ご協賛・ご協力先 ……(敬称略・五十音順 / 所属・役職は1982年発足当時)

(独立行政法人、地方自治体)
(独) 海技教育機構
石川県輪島市

(ご協賛 / ご協力企業・五十音順)

旭硝子(株)
味の素(株)
ASVAL(株)
花玉(株)
(学)金沢工業大学

旭硝子(株)
トヨタ自動車
日本電気硝子(株)
東日本マイロックス

パソニック(株)
日立ハイテクノロジーズ
日立マクセル(株)

(株)本田技研研究所
(株)東芝(株)
セイコーエプソン(株)
積水化学工業(株)
帝人(株)
株式会社ソー

凸版印刷(株)
トヨタ自動車
ASVAL(株)
花玉(株)
日本電気硝子(株)
東日本マイロックス
パソニック(株)
日立ハイテクノロジーズ
日立マクセル(株)

(株)本田技研研究所
(株)東芝(株)
セイコーエプソン(株)
積水化学工業(株)
帝人(株)
株式会社ソー

日立マクセル(株)
日立マクセル(株)
日立マクセル(株)
日立マクセル(株)
日立マクセル(株)

(株)本田技研研究所
(株)東芝(株)
セイコーエプソン(株)
積水化学工業(株)
帝人(株)
株式会社ソー